



Sustainable Community Center Japan

NPO

New Public Organization

欲しいものは自分達で創る

2005 年度 活動報告書

2005 年 1 月 1 日～2005 年 12 月 31 日

2006 年 2 月 10 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに「2005 年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」
 - 1-1. みあこネット事業概要
 - 1-2. みあこネットのサービス概要(～2005 年 3 月末)
 - 1-3. 基地局分布(～2005 年 3 月末)
 - 1-4. みあこネット普及支援事業(2005 年 4 月～)
 - 1-5. みあこネット運営体制
2. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」
 - 2-1. どこカル. ネット事業概要
 - 2-2. どこカル. ネットのサービス概要
 - 2-3. どこカル. ネット活動概要
 - 2-4. どこカル. ネットを利用した各種活動実績
 - 2-5. どこカル. ネット運営体制
3. こちネット事業
 - 3-1. 事業概要
 - 3-2. ユメチエプロジェクト
4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 4-1. 研究会
 - 4-2. 京都研究会
5. 受賞
6. 広報・マーケティング
 - 6-1. 各種メールマガジン発行
 - 6-2. 各種メールリングリスト運営
 - 6-3. Web サイト運営
 - 6-4. メディア露出度
7. 寄付
8. 会員について
9. 助成金

II センター運営に関する活動

総会開催

1. 2005 年度 SCCJ 理事会開催日
2. 事務局体制
3. 理事、監事、顧問

はじめに「2005年度の報告と今後の抱負」

2005年度は、2001年から活動が始まり、正式には2002年から実験運用を開始した公衆無線インターネット「みあこネット」が関係各所の協力により、「みあこネット方式」としての理念・技術が確立し、実験としての運用の終了を迎えるに至った。その後この方式を引き継ぐサービスを実施する企業も登場し、一般サービスとして継続運用出来るように連携を進めながら、公衆におけるインターネットアクセスの利便性が多くの人々に認知されてきている。

2005年度は、このみあこネットの実験運用終了を機に SCCJ の組織体制の見直しを行うこととなり、多くの皆様の叱咤激励をいただいた。みあこネット方式を活かした、ユビキタスで住民本位の医療環境の構築「どこカルネット」や、雇用創出・障害者の職業環境向上を図る新たな活動「こちネット・ユメチエプロジェクト」も、多くの支援・協力者と連携して進行中である。

2005年は政治・経済面でも規制緩和、制度改革が進行し、SCCJのステークホルダーである障害者支援機関や当事者、また医療福祉諸機関においてその環境が大きく変化している。このような状況下で、まだ日の目を見ない問題を含み取り、そのニーズを掘り起こし、支援・改善・提言していくことが NPO に課せられた重要なミッションである。

SCCJ では、今後も「情報化」をキーワードに、また引き続き「欲しいものは自分たちでつくる」をモットーに、ユビキタス社会の人づくり、ことおこし、まちづくりを実施していきたい。

2006年2月吉日

特定非営利活動法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター

代表理事 新川達郎

I センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」

(ホームページ <http://www.miako.net/>)

1-1. みあこネット事業概要

日本にはいくつか「公衆無線インターネット」の試みがあるが、このみあこネットは市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクト。市民有志の負担でアクセスポイントを設置し、無線が利用できるエリアを広げるモデルである。市民自らがつくる情報インフラ整備プロジェクトとして、みあこネットは世界に類をみない取り組みで、ユーザが無料で「いつでも」「どこでも」「誰でも」「簡単」「安心」「安全」に公衆無線インターネットが利用できる、市民主導型公衆無線インターネットサービスとして、2002年5月から正式に運用実験を開始し、2005年3月末でこの運用実験は終了し、2005年4月からは「みあこネット普及支援プロジェクト」となる。

【利用環境】

- ・ IEEE802.11b(Wi-Fi)での通信ができるノートパソコンから利用が可能
- ・ IEEE802.11b(Wi-Fi)に対応した製品であれば、メーカーは問わない
- ・ OS は、Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Mac OS X 10.2 に対応

【実績】

- ・ アクセスポイント数 約 300 局
- ・ 規格 IEEE802.11b 2.4GHz
- ・ 実験終了 2005年3月
- ・ 利用者 約 10,000 人(2002年5月より、2005年3月31日までの累計)

1-2. みあこネットのサービス概要(～2005年3月末)

■特徴：世界最先端のオープンな実験センター

- ・ 最大 11Mbps の通信速度と、VPN を利用した高度なセキュリティを備えており、ユーザに高度な知識が必要でなく利用が可能。

- ・アクセスポイントの多くは市民や民間企業の協力のもとに設置
 - ・世界最大規模の IPv6 の公衆無線インターネットエリア
 - ・一般利用者はみあこネットを無料で利用できる
- (アクセスポイントのオーナーが、通信費を負担する「おもてなし」モデル)

■どこでもみあこ

- ・京都府内および日本全国各地に無線インターネットの基地局を設置
- ・沖縄から北海道まで、全国 23 都道府県

■どこでも聴く新聞

- ・ユビキタスラジオ (Web 上の文字情報などを音声で読み上げるサービス) でどこでも新聞が読める

■どこでもインターネット: 日本通信(株)、(株)トリプレットゲート

- ・b-mobile ユーザは、b-mobile で使用しているアカウントで、また(株)トリプレットゲートの実施するワイヤレスゲートサービスの ID を取得すると、みあこネットエリアからインターネットアクセスが可能

■どこでもオフィス: (株)堀場製作所

- ・全国のみあこネット基地局から、VPN 接続で自社の基幹サーバへ

■どこでもプリント:

- ・コンビニで「ネットプリント」、富士ゼロックスが実験協力

1-3. 基地局分布(～2005年3月末)

都道府県	市、郡、区								
北海道	札幌市					大阪府	大阪市	豊中市	茨木市
新潟県	上越市					奈良県	奈良市		
茨城県	牛久市					和歌山県	和歌山市		
群馬県	桐生市					愛媛県	松山市		
埼玉県	戸田市					兵庫県	神戸市	西宮市	氷上郡
千葉県	鎌ヶ谷市					岡山県	倉敷市	津山市	
東京都	大田区	文京区	港区	台東区	品川区	鳥取県	鳥取市		
	江東区	中野区	世田谷区	千代田区	渋谷区	福岡県	北九州市		
	武蔵野市	国分寺市				大分県	別府市	大分市	佐伯市
神奈川県	横浜市	藤沢市	鎌倉市			宮崎県	宮崎市		
富山県	黒部市	富山市				沖縄県	沖縄市		
石川県	金沢市								
愛知県	春日井市								
京都府	京都市	舞鶴市	宇治市	向日市	綾部市				
	城陽市	相楽郡							

1-4. みあこネット普及支援事業(2005年4月～)

■事業の背景と概要

NPO 法人 SCCJ が主体となり、基地局設置・運営やサポート、各種を行う体制は 2005 年 3 月末をもって終了した。それに伴い、事業統括責任者は高木治夫(NPO 法人 SCCJ 理事、株式会社ネットイン京都代表取締役)氏から、岡部寿男(京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授)へと変更となり、みあこネット普及支援事業として開始した。

また、実験終了にあわせ、京都の地域プロバイダである kyoto-Inet(現 京都アイネット株式会社)において多くの基

地局を運用、ユーザサポートが開始された。

みあこネット普及支援事業では、公衆で安全に、VPN を用いたインターネットアクセスをし、だれもが安価に基地局を設置でき、そのエリアへの来訪者に対するおもてなしサービスを「みあこネット方式」と位置づけ、この方式を採用する企業・団体に対し普及支援を行い、また技術やサービス研究を行っている。

■「みあこネット 3年間のありがとう報告 & 懇親会」開催

みあこネット普及支援事業への移行に際して、2005年5月11日に京都市中京区の新風館において、「みあこネット3年間のありがとう報告 & 懇親会」を開催した。この場では、みあこネット活動の経緯や、無線インターネットアクセスにおけるセキュリティ問題に関するチュートリアルをみあこネット事業統括責任者岡部 寿男氏から、ユビキタス社会における医療情報化の重要性をどこカル.ネット事業統括責任者北岡 有喜氏から、また京都アイネット株式会社代表取締役社長三須 久氏には京都公衆無線サービス、株式会社ネットイン京都代表取締役社長高木 治夫氏からは、みあこネット方式対応ユビキタスゲートウェイ「ユビック」について講演いただいた。

<http://www.sccj.com/modules/news/article.php?storyid=104>

■ユビキタスジャパングランプリで「公衆無線部門・ユビキタス情報市民賞」受賞

2005年11月には、EC研究会(東京都千代田区 代表:土屋憲太郎 アジア太平洋EC協会代表)によるユビキタスジャパングランプリ(UJG 大賞)より、公衆無線部門・ユビキタス情報市民賞を頂き、公衆での市民向けインターネットアクセスサービスが社会的に認知を得ている結果を得た。

・第1回ユビキタスジャパングランプリ

<http://ecken.jp/ujg/sintyaku.htm>

■事業活動内容

2005年4月において、これまでの基地局設置者及び利用者に対して、運用・利用がスムーズに行えるよう配慮を行い、京都駅ビルや新風館、大学関係をはじめ主要な場所での利用は継続されるに至った。

・京都アイネット株式会社 「みあこネット方式京都公衆無線サービス」

<http://www.kyoto-inetbb.jp/service/miako/index.html>

2005年6月には、京都大学関係者向けのインターネット接続(PPTP 接続)が、京都大学施設内に設置された無線インターネットアクセスポイントで利用できるようになった。

・京都大学 情報環境機構 KUINS 運用委員会「PPTP 接続サービスの試験運用開始について」

<http://www.kuins.kyoto-u.ac.jp/announce/pptp-service.html>

2005年8月には、みあこネット企業会員である株式会社ネットイン京都と株式会社アイ・オー・データ機器より、無線アクセスポイントを接続すれば、自律分散型の公衆無線インターネット構築・運用方式である「みあこネット方式」に対応できるルータ(名称:ユビックゲートウェイ)がリリースされた。

・株式会社ネットイン京都 「ユビックゲートウェイについて」

<http://netin-kyoto.com/modules/news/article.php?storyid=2>

また、京都に来訪で携帯電話を持たない外国人観光客へのサービスとして、みあこネットアカウントを入手できるよう、窓口で紙によるID発行実験を2カ所で2005年12月から開始し、継続的にアカウント発行が行われている。

・外国人観光客向けアカウント発行窓口 :京都市国際交流会館 1階受付 9:00 - 21:00 月曜定休

(京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1)

:SCCJ事務局 平日9:00~18:00

(京都市中京区小川通六角下ル元本能寺町376)

■研究・実験

前年に引き続き、SCCJ が直接実験運営している京都駅ビル(京都市下京区)、新風館(京都市中京区)、井筒八つ橋北座(京都市東山区)の基地局において、映像を複数基地局、複数端末へ配信する「マルチキャスト実験」を京都大学、京都高度技術研究所と共に実施、研究している。2006年においては、本実験はP2P(Peer to Peer) Universal Computing Consortium(PUCC)(有限会社 PUCC)でのコンソーシアムにて実施を行い、2006年7月には国際論文を発表する予定。

1-5. みあこネット運営体制

■運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

	～2005年3月 みあこネットプロジェクト	2005年4月～ みあこネット普及支援事業
事業統括責任者	高木 治夫(NPO 法人 SCCJ 理事、株式会社ネットイン京都代表取締役)	岡部 寿男(京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授)
事業運営責任者	岡部 寿男(京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授)	※担当責任者設置せず
総括技術責任者	藤川 賢治(京都大学大学院情報学研究科助手)	藤川 賢治(京都大学大学院情報学研究科助手) ※担当責任者変更なし
技術運用責任者	古村 隆明((財)京都高度技術研究所研究員)	※担当責任者設置せず

【担当顧問】

氏名	所属団体
今井 賢一	スタンフォード日本センター理事
辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授
北岡 有喜	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長／臨床研究センター情報推進研究室長/SCCJ副代表理事

【協力会員】

財団法人 京都高度技術研究所	京都大学
社会福祉法人京都ライトハウス	産経新聞社
龍谷大学	佛教大学
大阪大学	慶應義塾大学
神奈川県視覚障害者情報・雇用・福祉ネットワーク(View-Net 神奈川)	

【企業会員】

株式会社アイ・オー・データ機器	松下電器産業株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社	日本通信株式会社
株式会社トリプレットゲート	日本ユニシス株式会社
株式会社ネットイン京都	

他1社

2. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

2-1. どこカル. ネット事業概要

日本にはいくつか「地域医療情報ネットワーク」の試みがあるが、どこカル. ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心安全で質の高い医療を受けることができるような(すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような)地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして2004年5月に開始。住民自らがつくる様々な健康・医療・福祉情報インフラ整備プロジェクトとして、どこカル. ネットは世界に類をみない取り組みであり、経済財政諮問会議で取り上げられるなど注目されている。「どこカル. ネット」プロジェクトは、ただ単にセキュリティの高い地域医療情報ネットワークのハードウェアやソフトウェアを提供するだけでなく、どこカル. ネットでつながれ

た情報技術と人のネットワークを活用した様々な健康・医療・福祉情報を相互有効利用可能な形で一人一人の住民にテーラーメイドで提供することで、新時代のライフスタイルを提案している。

2-2. どこカル.ネットのサービス概要

■特徴:いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

【1】いつでも:ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医(診療所)」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有(一地域一患者一電子カルテ)を行う。(注:ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。)

【2】どこでも=ユビキタス:「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者=住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。

【3】だれでも:京都高度情報化推進協議会(京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成)医療情報分科会との協業で進められている「共通診察券(無償)」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。

【4】安心安全:「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセルルータ(無線基地局)を利用。また、医療従事者や患者=住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証(生体認証のひとつ)」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。

【5】質の高い健康・医療・福祉:共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテーラーメイドで提供。

2-3. どこカル.ネットの活動概要

「どこカル.ネット」プロジェクト開始以前に、事業統括責任者が支援してきた3地区に加えて、現状、7地区の地域中核病院に対してASP型電子カルテ導入支援を行っている。

導入支援部隊として、どこカル.ネット企業会員数社から6名のボランティアスタッフに協力いただいている。

支援地区:7地区(2005年12月末)

支援地区の人口総和:約564万人(2005年12月末)

2-4. どこカル.ネットを利用した各種活動実績

2005年度は以下の活動を実施した。

■ 「どこカル.ネット」事業会議(12月16日まで年間計39回開催)

週1回、京都医療センターにて事業統括責任者、スタッフ一同で定例会議を実施。今後も継続して実施。

■ 「どこカル.ネット」会員研修会(どこカル.ネット企業会員限定)

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として2ヶ月に一度開催。今月24日に第8回目を迎える。

■ 「かかりつけ医」に関するアンケート結果発表

地域住民の方々が深く関わっていただくコミュニティー作りの一環として、また、役立つ医療情報共有サイト構築の為、2004年11月2日(火)~11月30日(火)の期間、第1回アンケートを実施。2005年1月20日~HP上で結果発表を掲載した。

■ 2005年7月1日 小学生を対象に「第1回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」応募者募集開始。

- ・ 最優秀賞・・・1名 賞状、デジタルカメラ Caplio R1S
最優秀賞受賞者所属の小学校には、リフレッシュPC(※使用済み中古パソコンを再生したもの)100台を寄贈予定。
- ・ 優秀賞・・・若干名 賞状、図書券、記念品
- ・ 記念品提供企業一覧 アクセンチュア株式会社 アライドテレシス株式会社 株式会社ウィルコム 関電

システムソリューションズ株式会社 キヤノンシステムソリューションズ株式会社 株式会社きんでん サクサ株式会社 日本 IBM 株式会社 株式会社ネットイン京都 日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社 リコー関西株式会社 (他 1 社 五十音順 敬省略)

■ リフレッシュPCプロジェクトについて

SCCJ「どこカル.ネット」では、病院や企業で使用され、不要となったパソコンを用いて、地域の情報化を進める活動を行っている。

パソコン本体を掃除し、内部のデータを消去して新たに利用可能な状態(リフレッシュPC)にすることによって、遊休資源を地域の学校や各種団体にとっての必要な資源へと生まれ変わらせることが可能。どこカル.ネットではこのプロジェクトを通して、地域の団体のIT支援を推進している。

・2005年実績(12月～)NPO法人綾部ITワークス様へ3台提供。

・2006年(1月～)社会福祉法人 みんななかま様へ2台・社会福祉法人西陣会様へ10台提供予定である。

■ 2005年7月13日～15日「ワイアレスジャパン」2005に、どこカル. ネットブース出展。

■ 2005年7月25日 どこカル.ネットのフレームワーク内で、サクサ株式会社様の「非接触型ICカード」と、日立ソフトウェアエンジニアリング様の「静紋」を組み合わせ、共通診察券発行プロジェクトを進めている。今回最初の成果産物として、両者を実装した「静紋付き情報端末」のプレスリリースが開始された。

■ 2005年8月12日 地域の健康・医療・福祉環境を改善するための活動の一環として、病院内の小児科に入院中の子ども達を対象に、遊びや体を動かせる機会作りを実施。2005年は、京都市伏見区にある京都医療センターの小児科にて、「夏休み小児科病棟慰問(お楽しみ会)」の第1回目を8月12日に、第2回目を9月2日に開催した。

「夏休み小児科病棟慰問(お楽しみ会)」の様

<http://www.dokokaru.net/modules/news/article.php?storyid=28>

■ 2004年12月に北岡事業統括責任者が、国際連合情報社会世界サミット(W SIS)の一貫として開催された、世界サミット大賞選考委員会の日本代表に選出され、日本代表コンテンツ選考委員会事務局が京都医療センター臨床研究センター内に設置された。どこカル.ネット事務局は、責任者が同一ということもあり、同選考委員会事務局運営を側面からサポートした。(詳細は、同選考委員会の HP: <http://www.wsis-award-japan.org/> をご参照下さい。)

・2005年9月12日 国際連合情報社会世界サミット大賞(W SA)世界大会結果発表。

・2005年11月25日 「国際連合情報社会世界サミット大賞日本代表選考(W SA-JAPAN)最優秀賞表彰式と記念シンポジウム」開催。

■ 2005年11月14日どこカル.ネット「第1回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」最優秀決定。

■ 2005年12月2日 SCCJ 第7回京都研究会 2005にて、どこカル.ネット「第1回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」最優秀賞表彰式を開催。

■ 2005年12月8日 会員企業株式会社 YOZAN 様と進めている“京都における WiMAX 実証実験事業”について、総務省から実験免許を受領。

■ 北岡事業統括責任者 2005 年度講演、主な活動

- ・ HL7 January Working Group Meeting Orlando, Florida, USA へ 2005 年 1 月 23 日～1 月 28 日の期間、出席。
- ・ 2005 年 2 月 17 日 「IPv6,RFID の高度利活用 ～安心安全のまちづくりを目指して～」と題し、平成 16 年度京都高度情報化推進協議会ネットワーク部会(共催 京都情報基盤協議会京都 ONE 推進部会)にて講演。
- ・ 2005 年 2 月 30 日 「安心・安全な医療・福祉環境づくり」と題し、APRICOT 2005 KYOTODAYにて講演し、パネリストとしても参加。
- ・ 2005 年 3 月 7 日 第1回相互運用性普及推進懇談会を(財)医療情報システム開発センターにて開催。
- ・ 2005 年 3 月 14 日 「HL7 EHR TC の最新動向」と題し、第 18 回 HL7 セミナーにて講演。
- ・ 2005 年 3 月 21 日 「医師臨床研修制度について」と題し、大学病院・臨床研修病院説明会シンポジウムにて講演。
- ・ 2005 年 4 月 13 日 21 世紀臨調「第 3 回総会」赤坂プリンスホテルにて開催。21 世紀臨調運営委員として参加。
- ・ 2005 年 5 月 23 日「安心・安全な観光都市京都を目指して」と題し、京都中ロータリークラブ第 627 回例会にて講演。
- ・ 2005 年 6 月 13 日 「医療・医薬品電子タグ実証実験について」と題し、京都高度情報化推進協議会 第 20 回総会にて講演。

- ・ 2005年6月17日 厚生科学研究「医薬品の有効性・安全性評価方法研究」北里大学薬学部にて第6回目班会議開催。
- ・ 2005年7月4日 「どこカル.ネットでの活用について」と題し、MVP株式会社(現:株式会社シンクプラス)主催「SynchroShop」製品発表会にて講演。
- ・ 2005年7月20日 「安心安全なまちづくり」～SCCJどこカル.ネットプロジェクトの概要～と題し、第12回JKSK会員とゲストの定例交流会(JKSKサロン)にて講演。
- ・ 2005年8月5日 「ユビキタス健康・医療・福祉ネットワークプロジェクト「どこカル.ネット」が目指す安心・安全なまちづくり」と題し、総務省近畿総合通信局、近畿情報通信協議会主催「第6回 u-Japan クローズアップセミナー」にて講演。
- ・ 2005年11月25日 国際連合情報社会世界サミット大賞日本代表選考(WSA-JAPAN)主催、最優秀賞表彰式と記念シンポジウムを開催。
- ・ 2005年11月30日 「医療の情報化 安心・安全なまちづくり」と題し、衆議院第一議員会館にて講演。

また、2006年1月にHL7 January Working Group Meeting Phoenix, AZ, USA へ出席予定。

2-5. どこカル.ネット運営体制

■運営体制 <http://www.dokokaru.net/outline/organization.html>

【どこカル.ネット事業統括責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	北岡 有喜	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長/臨床研究センター情報推進研究室長

【どこカル.ネット総括技術責任者】

氏名	所属団体
坂本 憲広	神戸大学大学院医学系研究科 クリニカルゲノムインフォマティクスセンター長

【どこカル.ネット担当顧問】

氏名	所属団体
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授/CAN フォーラム会長

【企業会員】

アイテック阪神株式会社	株式会社アステックコーポレーション
アライドテレシス株式会社	株式会社インスパイア
株式会社ヴァンテージ・コンサルティング	株式会社ウィルコム
MVP株式会社(現:株式会社シンクプラス)	キャノンシステムソリューションズ株式会社
サクサ株式会社	株式会社ジェイテック
中央システムサービス株式会社	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
株式会社ネットイン京都	株式会社ネットマークス
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社	株式会社 Protocol One
株式会社 YOZAN	

他 12 社

【団体会員】

社団法人京都府情報産業協会

3. こちネット

3-1. 事業概要

●「ユメチエ」プロジェクト

(WG 責任者:加藤和子)

障害者のくらしと社会を「ものづくり」でつなぐユニバーサル・ビジネス・プロジェクトです。障害者が働く施設と企業が連携し、協働ネットワークを構築することで、作り手・担い手・買い手ともによるこびを見い出せる「循環型ユニバーサル事業」の立ち上げと実践を目指します。

※「ユメチエ」とは、「夢」とフランス語の「metier(手仕事の意)」の造語です。

2005 年度の主な活動

- ・福祉施設・共同作業所における自主製品事業の支援・促進活動
- ・点字用紙リサイクルコンペの実施
- ・「ユメチエ・フォーラム 2006」開催
- ・Web 情報発信 <http://www.yumetier.net>

●「どれでも MyPC」プロジェクト

(WG 責任者:新城直)

視覚障害者は IT 技術を身につけることにより、リアルタイムで文字情報の受発信ができるという大きな躍進を遂げました。障害者がパソコンを利用する場合、障害のレベルに応じて、それを補う複数のソフトウェアが必要ですが、いったん自宅を出て、学校や施設、公共施設、勤務先などの PC を使うとなると、ソフトウェアの種類やメーカーなど環境がまちまちですぐに利用できず、せっかく能力を身につけていてもそれを十分に生かすことができません。

ブレードサーバ上で画面読み上げソフトなど、視覚障害者が必要とするソフトウェアを稼働させ、一般の PC で視覚障害者の利用環境を実現するのがこの「どれでも MyPC」プロジェクトです。

●Web アクセシビリティ推進プロジェクト

(WG 責任者:柴田宣史)

Web アクセシビリティに関する基礎的理解とガイドラインを広めるための勉強会や研究会を実施するなど、だれもが快適に利用できるインターネット環境の確立を推進するプロジェクトです。

音声読み上げソフトや配色に対応した、誰もが見やすい、聞きやすいHPの作成を広めること、また、障害者がパソコンやインターネットを通じて社会参加できるような、ユニバーサルな環境整備に力を注ぎます。

★子どもの安心安全ネットワーク

4月に北白川小学校の安心安全マップ、子ども100番の家MAP作成。

京都市の安心安全ネットワークに北白川地区としてエントリーし、モデル地域として選定された。活動を IT 面でサポートしている。

3-2. ユメチエプロジェクト

<施設・作業所の授産問題コンサルティング、企業や各種団体とのマッチング>

- ・京都ライトハウス+紙の京老舗「鈴木松風堂」
- ・精神障害者施設「YOUYOU 館」+玩具ベンチャー「ひねもす」
- ・ウッディ伊香立などものづくり3施設+クラフトギャラリー集
- ・DV 女性のシェルター、共同作業所サリュ:和布小物作りの製作支援(予定)
- ・知的障害者施設、みんななかま作業所:点字製品の製作支援(予定)
- ・ひねもす:国立京都医療センター小児科・左京区こどもまつり実行委員会
- ・精神障害者施設、オリーブホットハウス:京都ライトハウスとの和布製作支援にアサイン
- ・視覚障害者主体のイベント、ダイアローグインザダークとの提携(点字用紙リサイクル製品の販売)

<点字コンペ>

■趣旨:使用済みの点字用紙を利用したデザインやアイデアを広く募集し、京都ライトハウスなど福祉施設における新しい商品の企画に結びつけると同時に、点字用紙の存在や意味を広める。アート部門とアイデア部門を設置

■後援:京都市、京都新聞社、京都府、社会福祉法人京都ライトハウス、社会福祉法人名古屋ライトハウス、社会福祉法人日本盲人会連合、社会福祉法人日本ライトハウス

■選考委員

岩下 恭士 毎日新聞ユニバーサロン編集長
小暮 宣雄 京都橘大学文化政策学部教授
高橋 玲子 株式会社トミー社会環境部共用品推進室
谷口 知弘 立命館大学環境・デザインインスティテュート助教授
光島 貴之 造形作家

■募集期間 9月21日から12月28日

■応募者数:58組 応募作品:85点

■受賞作品

・大賞:「やわらかな風・光・つぶ」

・アイデア部門賞

「KAMIFUBUKI」

「SUKIMA(付箋紙)」

・特別賞:「色とりどりの葉っぱ・たからもの」

「文庫サイズブックカバー」

・佳作

盲導犬

花瓶型飾りかご

コラボレーション協奏曲「見果てぬ夢」

■展示:ユメチエフォーラムにて優秀作品展示

■Webにて作品、審査員講評をそえて発表予定

<フォーラム>

■概要:障害者のものづくり、就労や社会参画と、企業や地域の社会貢献とその相互連携について考察する講演会など

■日時:2006年2月12日(日)13時より

■場所:同志社大学寒梅館 地下A会議室

■入場料:500円

<プログラム>

●開会挨拶

SCCJ 代表理事 新川 達郎(同志社大学 大学院総合政策科学研究科 教授)

●基調講演

『アートでかわる福祉市場ーアウトサイドからの挑戦ー』

◎今中博之(社会福祉法人素王会アトリエインカーブ理事長・施設長)

<http://incurve.jp/>

日本ではじめて芸術とデザインに特化した通所授産施設として2003年に設立された「アトリエインカーブ」。利用者をアーティストとして迎え入れ、作品(アート)と商品(デザイン)を発信する活動により、全国から注目を集めている。「福祉マインド」と「企業マインド」のふたつの視点から、これからの福祉市場に求められるものは何かを問う。

●プレゼンテーション I

1. HOLYLAND がえがくゆめ ◎森 亮(修光学園)

<http://www4.ocn.ne.jp/~shuko/>

京都府下ではじめて福祉施設でベーカリー事業を立ち上げ10年。

第1回ユニバーサルベーキングカップにて大賞に輝く高い技術と、安心材料で作られたおいしいパンが人気、地域にとけこむブルーランジェリー・スタッフからのメッセージ。

2. 積木屋・ともにはたらくお店はこんなにおもしろい!

◎積木屋/豊能障害者労働センター 小泉 祥一・田岡 ひろみ・平田 和也

<http://www.tumiki.com/>

箕面市にて8店舗のリサイクルショップとWebショップを運営。その収益から、障害者・健常者ともに同額の給料を配分している。オリジナルグッズ通販の顧客リストは全国25,000人！その戦略と事業ポリシーを語る。

3. 『!-store』からの発信 ◎!-style 代表 板倉 信太郎

<http://www.ex-style.jp/store/>

作業所でのものづくりや販売流通支援などのコンサルティングを行う「!-Style」。

京都・新風館にてセレクトショップ『!-store』を開設し、全国の作業所の優れた商品を中心に、作家のクラフトを発信。その取り組みとショップ経営者からの提言。

4. プロダクトブランド『:Aaty: &・irie・』の歩み ◎テンダーハウス 吉野 智和

<http://www.kikuhokokai.ecnet.jp/>

テンダーハウスの陶製品ブランド「アーティ&アイリ」は、「京都デザイン優品」の認定を受けるなど、優れた製品で知られ、地元京都や東京等の雑貨店や、大手通販会社フェリシモにて広く販売されている。商品づくりの軌跡とブランディング戦略を語る。

●活動報告

「ユメチエプロジェクトのとりくみと今後の展開」 ◎SCCJ 加藤 和子

- ・共同作業所×企業 CSR 事業のコーディネート
- ・点字用紙リサイクルコンペ結果報告

●プレゼンテーションⅡ

5. 外食産業における草の根 CSR の効果と今後

◎株式会社ニュートーキョー 情報システム室長 湯澤 一比古

<http://www.newtokyo.co.jp/index.html>

大手飲食店グループが店舗メニューに点字用紙をリサイクル採用

6. CSR 観点からみた障害者のものづくり(仮題)および総括

◎同志社大学教授 新川 達郎

●同時開催

点字用紙リサイクルコンペギャラリー(12時半から17時半まで)

点字用紙をテーマにした、本邦初のギャラリー

喫茶担当: 修光学園、みやこ共同作業所

●懇親会

基調講演者及びプレゼンターを囲んで

寒梅館1F レストラン「アマークド パラディ」

<http://www.balnibarbi.com/kanbai/index.html>

◎参加費: 3,000円 30名様

* 懇親会のご予約は、電話(075-257-3777)・メール(tenji@sccj.com)にて承ります。お名前・連絡先・人数をお知らせ下さい。

●主催: 特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)

●共催: 同志社大学大学院総合政策科学研究科

●後援(予定): 京都府/京都市/京都新聞社/京都授産振興センター/株式会社コト/鈴木松風堂/有限会社時代工房

4. 研究会事業 (産官民学の活発な人材交流)

4-1. 研究会・セミナー

CSR(企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility))元年とも言える2005年、「Shopping for a Better World」のCEPの創設し、現在は社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)の認証規格SA8000を作っているSAIの代表である、アリス・テッパー・マーリンさんを東京と京都にお招きし、講演会を実施した。

■CSRの新しい流れ: アジアにおけるサプライチェーン・マネジメント

2005年10月21日(金)14:00~17:00 at 国際協力銀行本店

パネリスト

- ・アリス・テッパー・マーリン(SAI 代表)
- ・岡田 仁孝(上智大学 教授、比較文化研究所 所長)
- ・木村 卓郎(国際金融公社(IFC) 東京事務所 副所長)
- ・鈴木 均(日本電気株式会社 CSR 推進本部総括マネージャー兼社会貢献室長)

モデレーター

- ・川本 卓史(京都文教大学 教授、京都ソーシャルアントレプレナーネットワーク 代表)
- ・総合司会: 安間 匡明(海外投融資情報財団(JOI) 事業企画部長)

■NPOが社会にインパクトをもつためには? ~市民の“SRI”を考える~

10月22日(土) 13時半~16時半(会場: キャンパス・イノベーション・センター(田町駅徒歩1分))

キーノートスピーチ

- ・アリス・テッパー・マーリン(SAI 代表)

コメンテーター

- ・Dr. ジョン・マーリン(NY市チーフ・エコノミスト兼ニューヨーク大学大学院客員教授(企業倫理・CSR担当))
- ・河口 真理子(大和総研 経営戦略研究所)

■CSRの先駆者が京都にやってくる!

~あの『社会起業家』(岩波新書)で絶賛されたマーリンさんのセミナー~

<http://www.sccj.com/modules/news/article.php?storyid=119>

●第1回講演会 2005年10月24日(月)14:00~16:00 at ぼるるプラザ京都

テーマ: 「CSRの新しいながれ」

~サプライチェーンマネジメントと中国を含むアジアの事例を踏まえて~

●第2回講演会

テーマ: 「NPOが社会にインパクトを持つためには?」

~社会起業家マーリンさんと語る~

10月25日(火)18:30~20:30 at ひと・まち交流館京都

これらのセミナーでは、企業・NPOが社会的に果たすべき説明責任、およびそれをステークホルダーがどう評価するかを発表頂き、特に、中国に進出する日本の企業は数多く、グローバル企業としての労働CSRの方向性が問われているため、SA8000の視点から関心の高まるサプライチェーン・マネジメントについて議論した。参加には関西の大学生が多く出席し、これからCSRの機運を高めていく世代として、セミナーでの議論、またその結果を期待したい。なお、本セミナーの実施にあたっては、財団法人国際交流基金による助成プログラムを活用した。

4-2. 京都研究会

2005年12月2日(金)に、京都市国際交流会館において毎年恒例、年1回の研究会「京都研究会」を実施した。

今回のテーマは、「ICTは防災・減災のまちづくり」。防災や減災のために、こうした情報通信技術に何ができるのかを探り、これまで蓄えられてきた人々の災害に対処する知恵を組み合わせることで、災害に強いまちづくりや災害に強い市民づくりの検討を進めた。

講演者である株式会社ウィルコム八剣洋一郎社長は、PHSが通話集中時に障害の危険性が低く、電磁波も小さ

い利点を挙げ、医療機関による電子カルテの通信や、位置情報を利用した防犯対策にも活用できることについて講演頂き、視覚障害者のネットワーク組織「View-Net神奈川」の新城直会長も、使いやすい携帯電話端末の開発に参画した経験をもとに、「障害者にとっては災害時に有用な道具。障害者の目線を生かした製品開発を進めてほしい」などのメッセージを講演されるなど、社会でなお必要とされるサービス、機器のユニバーサル化を進める機運を高める機会となり、場所を移して深夜に及ぶ「朝までトーク」を通し、今後の SCCJ の活動の重要な指針となるテーマが数多く議論された。

■第7回京都研究会開催 私たちのまちに安心・安全のネットワークをつくる
～ICT は防災・減災のまちづくりに何ができるのか！～
<http://www.sccj.com/kk/2005/>

・日時: 2005年12月2日金曜日 13:00～
・場所: 京都市国際交流会館(京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1)
・第1部 研究会: 13:00～16:45

『ICT は防災・減災のまちづくりに何ができるのか！』

・講演

八剣 洋一郎(株式会社ウィルコム 代表取締役社長)
藤原 洋(株式会社インターネット総合研究所代表取締役所長)
國領 二郎(慶應義塾大学 環境情報学部教授)
渡辺 克也(総務省 総合通信基盤局電気通信事業部 電気通信技術システム課)
新城 直、平賀 一樹(View-Net神奈川 会長、ビジネス・ブレイクスルー大学院大学 学生)

・会場参加者、スピーカーを交えた総合討論会
コーディネータ: 國領 二郎 (慶應義塾大学 環境情報学部教授)

■宿泊者限定『朝までトーク!』: 23:00～翌朝

【会場】

・研究会(13:00～17:00)、レセプション(17:00～18:30)、分科会(18:40～20:00)

場所: 京都市国際交流会館
住所: 京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1
電話: 075-752-3010

・夜塾(21:00～23:00)、朝までトーク(23:00～翌朝)

場所: 京町家「庵」(京都市中京区押小路通東洞院)
<http://www.kyoto-machiya.com/weekly/machiya/nishioshi/index.html>

5. 受賞

みあこネット部門が、第1回『ユビキタスジャパン・グランプリ』(UJG大賞)における『公衆無線部門・ユビキタス情報市民賞』を受賞致しました。

http://www.miako.net/press/release/press_2005_11_18.html

6. 広報・マーケティング

Web サイト、メールマガジン、プレスリリース、各種メールリストでの広報・マーケティングを行った。

6-1. 各種メールマガジン発行

各種事業のテーマと対象者の関心が違うことから、対象者に対応したメールマガジンの発行を2002年度から開始し、2005年についても配信を行った。SCCJ 会員専用メルマガ『SCCJ Information』を会員101名へ発信 2005年度7回発行。

6-2. 各種メールリスト運営 (eGroups 利用)

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールリストが10数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールリスト「aibusan」は、誰でも入れる双方向型のメールリストで、設立当初の1999年の190名から数年たち、2005年12月末に登録者は880名となった。

6-3. Web 広報

2005 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・SCCJ の Web サイト <http://www.sccj.com/>
- ・みあこネット <http://www.miako.net/>
- ・どこカル.ネット <http://www.dokokaru.net>
- ・ユメチエ <http://yumetier.net/>

★アクセシビリティに配慮

今までに得たアクセシビリティの知見やノーハウで、耳で聞く場合の論理構造や見やすさ、平易な文章編集にこころがけ、みあこネットは日本語、英語、中国語、韓国語と多言語対応とした。

6-4. メディア露出度

2005 年度も、どこカル.ネットを中心に、多数のメディアに取り上げられた。

●SCCJ(事務局把握分1 前年度 12)

- ・ 2005 年 12 月 3 日 京都新聞「防災に先端技術活用 左京で通信関係者らシンポ」

●みあこネット(事務局把握分 5 前年度 80)

- ・ 2005 年 5 月 12 日 京都新聞朝刊 「「みあこネット」実験終わる」
- ・ 2005 年 5 月『オフィスからパソコンがなくなる日』東洋経済新報社 柴田 英寿 (著), 「働き方を変えよう!」コミュニティ有志 (著)
- ・ 2005 年 7 月 5 日 京都新聞朝「地元経済」『市民が担う“無銭”LAN』
- ・ (関連記事)2005 年 8 月 3 日 RBBTODAY「ネットイン京都とアイ・オー、セキュリティ技術と VPN 機能を搭載したルータを開発」
- ・ (関連記事)2005 年 8 月 04 日 NetSecurity 「VPN サーバ機能を搭載したセキュリティールータの提供を開始」

●どこカル.ネット (事務局把握分 11 前年度 4)

- ・ 2005 年 3 月 28 日 京都経済新聞 「くらし」と「いのち」の innovation
- ・ 2005 年 5 月 24 日 株式会社三井物産戦略研究所機関誌 [The World Compass] 2005 年 5 月号「ソーシャル・キャピタルから見るライフケア」
- ・ 2005 年 6 月 22 日 株式会社じほう [医療情報経済紙 Japan Medicine] 地域ユニットで患者主体の医療
- ・ 2005 年 7 月 13 日 ワイヤレスジャパン 2005 の会場で、どこカル.ネット展示ブース内容に対して取材があり、テレビ東京系の番組「ワールドビジネスサテライト」 23:00~23:58 で放映。
- ・ 2005 年 7 月 25 日 株式会社リックテレコム [月刊テレコミュニケーション 8 月号]「無線 LAN でどこでもカルテ」~救急現場に ASP で診察記録を配信~
- ・ 2005 年 7 月 30 日 ワイヤレスジャパン 2005 の会場で、どこカル.ネット展示ブース内容に対して取材があり、テレビ朝日系の番組「賢者の選択」 10:00~10:55(“今ナビ!”というコーナー内)で放映。

放送日時

7 月 30 日(土)10:00~ BS朝日

7 月 31 日(日)12:00~ 日経CNBC

8 月 01 日(月)22:00~ サンテレビ

8 月 02 日(木)24:30~ BS朝日

8 月 06 日(土)16:00~ 日経CNBC

- ・ 2005 年 8 月 15 日 日経コミュニケーション 8 月 15 日号「実践 e-Japan」どこカル・ネットの取り組みについて
- ・ 2005 年 10 月 18 日 株式会社日立ソフトウェアエンジニアリング広報誌「日立ソフトレビュー」第 4 号「電子カルテで日立ソフトとともに担う地域医療のあるべき未来」
- ・ 2005 年 12 月 2 日 琉球新報朝刊に、作文コンクール最優秀賞受賞者の報道記事が掲載。
- ・ 2005 年 12 月 15 日 骨髄移植推進財団発行「マンスリーレポート」に、「第 1 回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」及び、最優秀賞受賞者について掲載。
- ・ 2005 年 12 月 16 日 日経 BP ガバメントテクノロジー2005 年冬号「実践 e-Japan」どこカル・ネットの取り組みについて

●こちこネット(事務局把握分9)

- ・2005 年 4 月 23 日 京都新聞「北白川小PTA、事故防止マップ」

- ・2005年6月1日 アサヒコム「視覚障害者自身で作った臨場感ある京都の街の音声道案内」
- ・2005年11月1日 点字図書館発行「ホームライフ」
- ・2005年11月5日 京都新聞「点字用紙再生、知恵貸して 来年、京都のNPO法人がコンペ開催」
- ・2005年11月16日 AI あいあい京都 「点字用紙再活用した作品を」カラー写真入り掲載
- ・2005年11月28日 KBS 京都 「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」
- ・2005年12月23日 神戸新聞地域総合面 点字用紙リサイクルコンペ
- ・2005年1月10日 KBS 京都「ゆうYOU 京都」
- ・2005年9月から12月 毎日ユニバーサルサロン Web 掲載 2件

累計(2005年1月1日～12月31日)

	SCCJ 全般	みあこネット	どこカル.ネット	こちちネット	計
大手新聞					
地方紙	1	2	2	3	8
政府・行政系媒体					
一般紙					
ネット系メディア		2			2
テレビ・ラジオ			2	4	6
その他		1	7	2	10
計	1	5	11	9	26

7. 寄付

京都文教大学 50,000 円

8. 会員について (2005年12月末現在)

<SCCJ正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	60	32	92
学生	6	2	8
合計	66	34	101

<SCCJ 企業・団体会員> 2団体

京都ライトハウスFSTモニター

京都市北部障害者地域生活支援センター「きらリンク」

<みあこ企業・団体会員> 8社

株式会社アイ・オー・データ機器

松下電器産業株式会社

日本通信株式会社

株式会社日本ユニシス

京セラコミュニケーションシステム株式会社

株式会社トリプレットゲート

株式会社ネットイン京都

他1社 (企業名非公開)

<どこカル.ネット企業・団体会員> 29社1団体

アイテック阪神株式会社

株式会社アステックコーポレーション

アライドテレシス株式会社

株式会社インスパイア

株式会社ヴァンテージ・コンサルティング

株式会社ウィルコム

MVP株式会社(現:株式会社シンクプラス)

キヤノンシステムソリューションズ株式会社

サクサ株式会社
株式会社ジェイテック
社団法人京都府情報産業協会
中央システムサービス株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
株式会社ネットイン京都
株式会社ネットマークス
日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
株式会社 Protocol One
株式会社 YOZAN
他 12 社（企業名非公開）

<ここちネット> 3社
愛きもの株式会社
有限会社時代工房
株式会社コト

9. 助成金

1,000,000 円 財団法人国際交流基金
4,070,000 円 独立行政法人福祉医療機構(高齢者・障害者福祉基金)

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター 総会
日時：2005年2月18日(金) 19:00-20:00
会場：SCCJ オフィス（京都市中京区小川通六角下ル）
2004年度事業報告、収支報告、2005年度役員体制が了承された。

2. 2005年度 SCCJ 理事会開催

○第1回理事会 2005年1月15日 10:30-12:00
○第2回理事会 2005年2月17日 18:00-20:00
○臨時理事会 2005年3月5日 15:30-17:00
○第3回理事会 2005年3月26日 12:00-14:00
○第4回理事会 2005年4月23日 12:00-14:00
○第5回理事会 2005年6月4日 10:00-12:00
○第6回理事会 2005年7月2日 9:00-11:00
○第7回理事会 2005年8月27日 9:00-11:00
○第8回理事会 2005年9月17日 9:00-11:00
○第9回理事会 2005年10月22日 9:00-11:00
○第10回理事会 2005年11月12日 9:00-11:00
○第11回理事会 2005年12月17日 9:00-11:00

会場は、何れも SCCJ 事務局(京都市中京区小川通六角下ル)にて開催した。

3. 事務局体制（2005年12月末現在）

(1) 職員

常勤: 3名
事務局長: 黒木 実奈子
プロジェクト・コーディネータ: 小川 麻理
プロジェクト・コーディネータ: 隅岡 敦史
非常勤: 1名 加藤 和子

(2) 学生インターン

龍谷大学学生1名、大学コンソーシアム京都のインターンシッププログラム 2005年8月1日～9月15日

立命館大学学生1名、大学コンソーシアム京都のインターンシッププログラム 2005年8月1日～9月15日

4. 理事、監事、顧問 (2005年12月末現在)

代表理事	新川 達郎	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	デザインオートメーション(株) 代表取締役
	北岡 有喜 (副代表理事)	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長・ 産科医長・臨床研究センター情報推進研究室長
	高木 治夫	(株)ネットイン京都 代表取締役
監事	阪口 晃	税理士
顧問	跡田 直澄	慶応大学 商学部 教授
	今井 賢一	スタンフォード日本センター 理事 京都府中小企業総合センター 所長
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学 大学院映像造形学科 教授
	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター 理事
	北岡 有喜 (みあこネット顧 問)	独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長・ 産科医長
	國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授 / CANフォーラム会長
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授
	北矢 行男	多摩大学経営情報学部・大学院修士課程 教授 戦略問題研究所 所長
	公文 俊平	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 所長 CANフォーラム 会長
	林 敏彦	スタンフォード日本センター理事長
	町田 洋次	社団法人 ソフト化経済センター 理事長代行
	山内 直人	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授